

米ドル円が約4年半ぶりの115円台に 利上げ期待と強い経済指標による米ドル高が背景

2021年11月25日

米ドル高主導による米ドル円上昇余地は限定的か

米ドル円は2017年3月以来の高値である115.51円まで上昇しました。最近では米ドルが対円で上昇する一方、他通貨は対円で下落し、円安ではなく「米ドル高」が進んでいます。米ドル高の原因は第一に、最近のFRB（米国連邦準備制度理事会）高官のインフレ警戒発言を受け、米国の利上げ前倒し観測が強まったことにあります。第二に、米経済指標が予想以上に強いことにあります。昨日は週間の新規失業保険申請件数が市場予想比で大幅に改善し、52年ぶりの低水準となったことが、米ドル買いを誘いました。

ただ、昨日は強い米経済指標を受け、米2年国債利回りが上昇した一方で、10年国債利回りは低下しました。FRBが量的緩和縮小を速めて利上げを前倒しすれば、先行きの景気拡大やインフレが抑えられるとの見方があるからだと思います。米ドル円は日米5年国債金利差との連動性が高いですが、米5年国債利回りは米10年国債利回りに近づきつつあるため、今後は上昇が鈍化するとみられます。その結果、日米5年国債金利差の拡大も鈍化し、米ドル円の上昇も抑制されるでしょう。また、米国のインフレ率が高まった原因は、供給制約だけではなく、2021年3月にバイデン政権の大型経済対策が発動されて需要が高まったことにもあるため、前年同月比のインフレ率は2022年3月以降に低下しやすくなるでしょう。そうとなると、市場のインフレ懸念と利上げ観測が2022年前半にピークアウトして米金利と米ドル円の上昇が進みにくくなる可能性もあります。したがって、米ドル高主導の米ドル円上昇には限界があると想定しています。

米ドル・円・他通貨の為替



日米5年国債金利差と米ドル円



当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。